

逸話1 家康がピンチ！どうする？

1599年（慶長4）年9月7日、家康は重陽ちようようの節句を祝うため、大坂城の秀頼のもとへ出かけることになり、秀康に伏見城の留守を任せました。大坂に入ると増田長盛ましたながもりから、家康暗殺の謀略があることを告げられます。首謀者は五大老の一人・前田利長であり、協力者は土方雄久ひじかたかつひさ、大野治長おおのはるなが、そして浅野長政でした。

家康は、ただちに秀康のいる伏見に使いを出し、すべての兵を派遣するよう命じました。秀康は万一暗殺が実行されてしまった場合に備えて、あえて一部の兵を残し、残りの兵3,800人を大坂に派遣しました。この差配をみた家康は、「あっぱれ、秀康は父に勝るほどの力量である」と讃えたということです。

（「越藩史略」「津山松平家 浄光公年譜」）

